

治療が終わりましたら必ずすぐ(1時間以内)に 1~4の手順に沿ってメンテナンスを必ず行ってください。

血液などが付着したまま放置されますと、血液などの凝固が原因で腐食による発熱が発生し、火傷や故障の原因となる恐れがあります。

1. 準備

X-SG20ML / SG20M



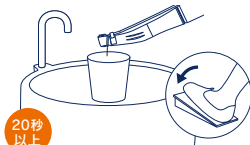
<注水ノズル一体型>



<注水ノズル分離型>

① パーを取り外します。

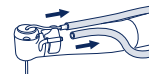
② ハンドピースを20秒以上作動させ、注水されていること、異常がないことを確認します。



2. 洗浄 / 清掃 / 消毒

ハンドピースの洗浄 注水ノズル一体型

① 注水チューブを平行に引き抜いてください。



② ハンドピースのヘッド側を約20mm水中に入れ15秒程度正回転、逆回転で回転させてください。



③ ハンドピースをモータから取り外します。



④ センター注水ノズルを使用している場合、センター注水ノズル、パイプホルダーを取り外します。



⑤ ハンドピースとパイプホルダー表面の汚れを流水で洗い流し、ブラシ(金属製は不可)で洗い落としてください。



⑥ 消毒用アルコールを含ませた布などで丁寧に拭き取ります。



▲ 注意

もし水が内部に入った場合は、ハンドピース後部よりシリンジなどでエアを噴射して水分を除去してください。水分が入った状態で注油を行うと、注油の効果が損なわれるだけでなく、内部腐食など発生する原因となります。

消毒用アルコール

注水ノズル分離型

① 注水ノズルを押さえた状態で注水チューブを平行に引き抜いてください。



② ハンドピースのヘッド側を約20mm水中に入れ15秒程度正回転、逆回転で回転させてください。



③ ハンドピースからモータを取り外します。



④ 注水ノズルの内側に引っかかる形状があるので、注水ノズル先端を指で押して引っ掛かりを取り外してください。



⑤ ハンドピースを時計回りに回し、注水ノズルを取り外します。



⑥ ハンドピースと注水ノズル表面の汚れを流水で洗い流し、ブラシ(金属は不可)で洗い落としてください。



⑦ 消毒用アルコールを染みこませた布などで丁寧に全体を拭き取ります。



▲ 注意

もし水が内部に入った場合は、ハンドピース後部よりシリンジなどでエアを噴射して水分を除去してください。水分が入った状態で注油を行うと、注油の効果が損なわれるだけでなく、内部腐食など発生する原因となる恐れがあります。

消毒用アルコール

ウォッシャーディスインフェクター(熱水洗浄器)での洗浄

① ハンドピースホルダーに保持される部分は、消毒用アルコールで汚れを拭き取ってください。

▲ 注意

熱水洗浄器を使用する場合は、洗浄後に十分乾燥させて、内部の水分を取り除いてから注油をしてください。水分が残った状態で注油を行うと、注油の効果が損なわれるだけでなく、内部腐食などの発生する原因となる恐れがあります。

② ISO15883-1に合致した熱水洗浄器を使用してください。熱水洗浄器の取扱説明書に従ってください。

グラスロッドの清掃(ライト付のみ)

グラスロッドにゴミや切削物などが付着した場合は、消毒用アルコールを染みこませた綿棒などで丁寧に拭き取ります。



3. 注油

PANA SPRAY Plusでの注油

各患者の治療後、またはオートクレーブ滅菌前には、以下の通り必ずパナスプレープラスで注油を行ってください。その際オイルの周囲への飛散を防ぐため、必ずハンドピースを布などで覆ってください。パナスプレープラスをご使用する前はスプレー缶を3~4回よく振ってからお使い下さい。



① パナスプレープラスのノズル部に、E-タイプスプレーノズルを強く差し込みます。



② スプレーノズルをハンドピース後部へ挿し込み、ハンドピースを押さえて、ハンドピース先端よりオイルが出るまで2~3秒スプレーします。これを2~3回繰り返します。注油は先端から異物などの汚れが出なくなるまで繰り返し行います。



▲ 注意 自動注油機は、使用しないでください。

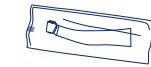
4. 包装 / 滅菌

包装

注油により表面に付着したオイルをガーゼなどの布で全体を拭き取ります。



ハンドピースを個々に滅菌バッグに入れ、密封します。



▲ 注意

PVA(ポリビニルアルコール)などの水溶性の接着成分を含む滅菌バッグは使用しないでください。滅菌中に溶出した接着成分が製品内部に入り込み、回転不良(固着して作動しない)などの不具合を起こす場合があります。

滅菌

オートクレーブ滅菌を行います。以下の条件でオートクレーブ滅菌を行ってください。



※132℃で15分以上、又は134℃で3分以上。
※ご使用のオートクレーブ滅菌器の取扱説明書に従ってください。
※乾燥工程を含め、135℃をこえる滅菌器を使用しないでください。故障の原因になります。

このマークの付いているナカニシ製ハンドピースは、135℃の蒸気滅菌器で滅菌可能です。

▲ 注意

● 酸化電位水(強酸性水、超酸性水)、強酸、強アルカリ性の薬剤、塩素含有の溶液、ベンジン、シンナーなどの溶剤で洗浄、浸漬、拭き取りをしないでください。
● このマークの表示がある製品は熱水洗浄が可能です。製品の取扱説明書に従ってください。

▲ 注意

● 各患者の治療後、ハンドピース内に残った汚れ、切削粉などを排出・洗浄し、ベアリングなどを潤滑するために必ず注油を行ってください。ハンドピース内部への注油を怠りますとベアリングなどの摩擦粉や汚れが原因で以下の不具合、または思わぬ事故が発生する恐れがあります。【ハンドピースの発熱や回転不良／異常な振動、音／パターの振れ／パターが抜ける、または抜けにくい／ベアリングの早期破損】

● 上記の注油を何度か行ってもオイルに汚れがまざる場合は、内部部品が消耗している恐れがあります。販売店へ修理を依頼してください。● 注油する際は、ハンドピースをしっかりと押さえてスプレーの圧力によって飛び出さないように注意してください。● 洗浄・注油が十分に行われない場合、内部に残留した血液などにより内部が腐食し、回転不足やトルク不足など故障の原因になります。● パナスプレープラスを、逆さにして使用しないでください。

治療が完了しましたら必ずすぐ(1時間以内)に 1~4の手順に沿ってメンテナンスを必ず行ってください。

血液などが付着したまま放置されますと、血液などの凝固が原因で腐食による発熱が発生し、火傷や故障の原因となる恐れがあります。

1. 準備

X-DSG20L / X-DSG20



- ① パーを取り外します。
- ② ハンドピースをモーターから取り外します。



分解

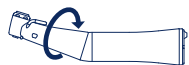
▲ 注意

分解する前にロックピンが出ていない状態(中に入ったまま)では分解・組立できません。その際は、無理に分解・組立しようとせず、修理を依頼してください。

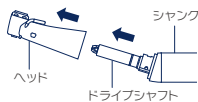
- ① ロックピンを確認します。



- ② シャンクを押さえながらヘッドを矢印方向に回します。



- ③ ヘッド / ドライブシャフトをシャンクから引き抜きます。



2. 洗浄 / 清掃 / 消毒

ハンドピースの洗浄

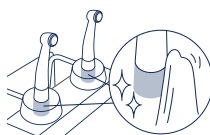
- ① 分解した部品を、中性または弱アルカリ性の洗浄液で十分ゆすいでください。汚れがひどい場合は、超音波洗浄器のご使用をお勧めします。
- ② 洗浄液を流水でよく洗い流してください。
- ③ 洗い流した後、すぐにハンドピースを組立て、表面の水分を拭き取ってから、注油をしてください。注油により内部の水気を吹き飛ばします。

▲ 注意

分解した部品をブラシなどでこすらないでください。ブラシなどの毛が部品に付着し、製品内部に入り込んだ場合、故障の原因になります。

ウォッシャーディスインフェクター(熱水洗浄器)での洗浄

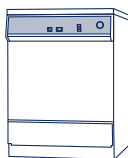
- ① ハンドピースホルダーに保持される部分は、消毒用アルコールで汚れを拭き取ってください。



▲ 注意

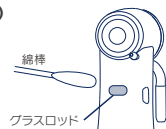
熱水洗浄器を使用する場合は、洗浄後に十分乾燥させて、内部の水分を取り除いてから注油をしてください。水分が残った状態で注油を行うと、注油の効果が損われるだけでなく、内部腐食などの発生する原因となる恐れがあります。

- ② ISO15883-1に合致した熱水洗浄器を使用してください。熱水洗浄器の取扱説明書に従ってください。



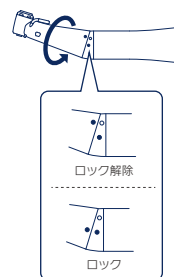
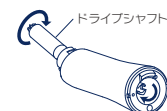
グラスロッドの清掃(ライト付のみ)

グラスロッドにゴミや切削物などが付着した場合は、消毒用アルコールを染みこませた綿棒などで丁寧に拭き取ります。



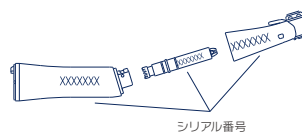
ハンドピースの組立

- ① ドライブシャフトをシャンクに突き当てるまで挿入します。
- ② ドライブシャフト先端の歯車を回して、歯車がかみ合っていることを確認します。
- ③ ヘッドの●印とシャンクの○印(ロック解除)を併せて突き当てるまで挿入します。この時、ヘッドとシャンク間に隙間がないことを確認します。隙間がある場合は、ヘッドとドライブシャフトの歯車がかみ合っていないので、一度、ヘッドを取り外して、ドライブシャフト先端の歯車回してから再度ヘッドを挿入します。
- ④ ヘッドを●印(ロック)方向へカチツとした感覚がする(●印が合う)まで回します。



▲ 注意

分解、洗浄した際は、分解前と同じ組み合わせになるように組み立ててください。異音の発生や、十分に性能を発揮できない恐れがあります。それぞれに刻印されたシリアル番号を確認いただき、なお、ご購入時は全てのシリアル番号が同じですが、修理後は番号が異なる場合があります。



3. 注油

PANA SPRAY Plusでの注油

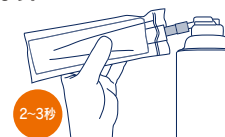
各患者の治療後、またはオートクレープ滅菌前には、以下の通り必ずパナスプレープラスで注油を行ってください。その際オイルの周囲への飛散を防ぐため、必ずハンドピースを布などで覆ってください。パナスプレープラスをご使用する前はスプレー缶を3~4回よく振ってからご使用下さい。



- ① パナスプレープラスのノズル部に、E-タイプスプレーノズルを強く差し込みます。



- ② スプレーノズルをハンドピース後部へ挿し込み、ハンドピースを押さえ、ハンドピース先端よりオイルが出るまで2~3秒スプレーします。これを2~3回繰り返します。注油は先端から異物などの汚れが出なくなるまで繰り返し行います。



▲ 注意 自動注油機は、使用しないでください。

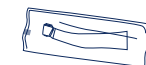
4. 包装 / 滅菌

包装

注油により表面に付着したオイルをガーゼなどの布で全体を拭き取ります。



ハンドピースを個々に滅菌バッグに入れ、密封します。



▲ 注意

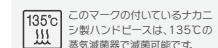
PVA(ポリビニルアルコール)などの水溶性の接着成分を含む滅菌バッグは使用しないでください。滅菌中に溶出した接着成分が製品内部に入り込み、回転不良(固着して作動しない)などの不具合を起こす場合があります。

滅菌

オートクレープ滅菌を行います。以下の条件でオートクレープ滅菌を行ってください。



※132℃で15分以上、又は134℃で3分以上。
※ご使用のオートクレープ滅菌器の取扱説明書に従ってください。
※乾燥工程を含め、135℃をこえる滅菌器を使用しないでください。故障の原因になります。



▲ 注意

●製品によって、浸漬および超音波洗浄器での洗浄が出来るものと出来ないものがあります。詳しくは、ご使用製品の取扱説明書をご確認ください。●酸化電位水(強酸性水、超酸性水)、強酸、強アルカリ性の薬剤、塩素含有の溶液、ベンジン、シンナーなどの溶剤で洗浄、浸漬、拭き取りをしないでください。●このマークの表示がある製品は熱水洗浄が可能です。製品の取扱説明書に従い行ってください。



●各患者の治療後、ハンドピース内に残った汚れ、切削粉などを排出・洗浄し、ベアリングなどを潤滑するために必ず注油を行ってください。ハンドピース内部への注油を怠りますとベアリングなどの摩耗粉や汚れが原因で以下の不具合、または思わぬ事故が発生する恐れがあります。
[ハンドピースの発熱や回転不良・異常な振動、音・パーの振れ/パーが抜ける、または抜けない/ベアリングの早期破損]

▲ 注意

●ヘッドとシャンクがロックされていない、または●印がずれている状態で注油すると、スプレーの圧力によってヘッドが飛び出す恐れがあります。●上記の注油を何度か行ってもオイルに汚れがまざる場合は、内部部品が消耗している恐れがあります。販売店へ修理を依頼してください。●注油する際は、ハンドピースをしっかり押さえスプレーの圧力によって飛び出さないよう注意してください。●洗浄注油が十分に行われない場合、内部に残留した血液などにより内部が腐食し、回転不足やトルク不足など故障の原因になります。●パナスプレープラスを、逆さにして使用しないでください。